

第36回川崎市文化芸術振興会議（摘録）

- 1 会議名 川崎市文化芸術振興会議
- 2 日時 平成27年5月19日（火）
午前10時15分～午前11時45分
- 3 場所 川崎市役所第4庁舎4階第5会議室
- 4 出席者
 - (1) 委員 澤井委員（議長）、垣内委員（副議長） 犬飼委員、岩田委員、小泉委員
小嶋委員、関委員、高田委員、藤嶋委員
 - (2) 事務局 市民・子ども局市民文化室
中村室長、高橋担当課長、石床担当係長、渡邊職員
 - (3) 事業関係者 東海道かわさき宿交流館 青木館長、小笠原副館長
川崎区役所地域振興課 町田係長、外山職員
- 5 議題
 - (1) 東海道かわさき宿交流館ヒアリング
 - (2) 平成27年度文化アセスメント対象事業について
- 6 公開・非公開の別 公開
- 7 傍聴者 0名

【審議内容】

事務局 委員過半数の出席により、会議が成立した旨を確認。

議題1

澤井議長 それでは、議題1の「東海道かわさき宿交流館」についてヒアリングを開始します。

高田委員 現在の館は、外国人が来るような観光拠点としてのイメージが出来てきているが、こうした観光拠点としての視点は、館の建設当初からあったものなのか。

地域振興課 羽田空港で降りた外国人観光客が、東京に行く途中で立ち寄るような利用が増えてきている。建設当初は、地元住民の地域交流や青少年が地域の歴史を学ぶ拠点ということを主な目的と考えていた。

高田委員 行政の箱物というのは、事前計画でどこまで練り込まれ、検討が重ねられ建てられているのか。結果論だが、実際に運営開始後、観光拠点としての色合いが強

くなってきている中で、例えば、トイレの数が足りない等、その流れへの対応を今後どのように考えているのか。

地域振興課

まち歩きの休憩所としての需要が想定以上に多く、1階の給湯室をトイレに改造できないかという話はもらっているが、建築したばかりでの改築は難しいと考えている。ただ、今後改善しなければならない課題であるという認識は持たせていただいている。

青木館長

当初は、まち歩きの方々が途中でお弁当を温めて食べられるよう給湯室を設置したが、実際には川崎は横浜や東京から歩いてきた人の終点として使われており、そうした需要は想定より多くなかった。一方で、旅行会社企画のまち歩きツアーが増えており、集団で来られる方が多く、トイレが混みあうようになっている。これらは、開館前には想定していなかったが、基本的には良く考えて建てられていると思う。

館を観光資源として考えた場合、羽田のトランジットの間や、殿町に会議に来た人たちが空いた時間に立ち寄れる観光メニューの一つとして載せられるのではないかと考えている。

高田委員

実働部隊としてのボランティアではなく、館長や副館長の職務をこなせるようなボランティアを育てるといった視点はあるのか。

事務局

館長や副館長は、館の運営等様々な事項に対して管理責任を負うことになるため、こういった責任を負う職務にボランティアの方に就任いただくということにはできない。

高田委員

元々、地域住民の声からできた交流館として、有償ボランティアなりもっと、館の運営に巻き込んでいくことはできないのか。

青木館長

現在は、我々が受託しており、館の館長・副館長は受託者である観光協会の人間が務めているが、指定管理施設は5年ごとに公募で決定されるため、そういった提案をする事業者が採用されることはありうる。

関委員

企画面ではどうか、地域を巻き込んでやっているのか。

青木館長

地域の方々等で構成される運営委員会で意見を聞きながら事業計画等をたてている。ただ、館の体制は、館長、副館長、学芸員、事務職員のほかにはアルバイトが数名という体制であるため、組織的に企画委員会のようなものを作って提案していくような形にはなっていない。個人が企画を進めているような状況である。

澤井議長

来館者へのアンケート調査のようなものはどのように取り扱っているか。

青木館長

もちろん、参考にして反映させるよう取り組んでいる。人によって反応がまちまちであるため、難しい面もあるのだが、ボランティアガイドの接し方や個々の企画など、アンケートをもとに色々と変えていっており、総じて良い評価をもらえるようになってきている。

岩田委員

平成27年度の事業計画は、平成26年度と比べてどういう面を変えていこうと考えているのか。

地域振興課 展示に関しては、陳腐化を防ぐため、ARを活用した展示（タブレット端末に文字や映像が映し出される）を活用する。

岩田委員 施設の利用事業はどうか、現在の利用率は50%以下だが改善策はあるのか。

地域振興課 貸館事業については、例えば交流館のホールを借りて、寄席を開いている方々が、交流館を寄席の聖地にしようと活動している。そうした館を借りて開催されるイベントの広報支援などを行なうことにより、貸館の利用者増につなげていきたい。

青木館長 まだ、開館2年であり認知度が低い状況であるが、昼の利用者は増えてきた。また、土日はほぼ埋まるようになった。夜間が課題で、現状、近隣のマンションの管理組合や会社の会議の利用がほとんどである。

澤井議長 夜は何時までか。

青木館長 21時までである。

高田委員 ここでの貸館事業との関連で、市民館にあたる施設は区内にあるのか。

地域振興課 教育文化会館がある。

高田委員 色々話を聞いて、交流館のイメージが変わりつつある。市民館的な役割はもちろんだが、観光拠点として海外からの観光客なども見据えた動きもある。役割が増えていくことや、区としての企画と館とのコラボレーションなどもあり、色々と苦労なされていると思うが、川崎区や館はどのように受けとめているのか。

青木館長 区民を対象とした区主催の事業の中で、交流館を活用した事業などをやってもらっており、館としても協力しながら事業を実施している。

高田委員 館の運営委員は何名いて、どの程度開催されているのか。

青木館長 14名の委員で年2回開催している。

高田委員 HPのメンテナンスはどのように行っているのか。

青木館長 館の職員が行っている。

高田委員 例えば、どこまで出来るかわからないが、アンケートの結果や運営委員の話し合いの結果を載せていくようなことは必要なのではないか。

犬飼委員 江戸時代の粋に遊ぶは面白い事業だった。長唄や日本舞踊などのような人が集まるものは過去にもうやっているのか。

青木館長 既に過去に行っている。だいたい50～60人ぐらいの集客だが、客層が偏っていることが一番の課題である。若い人に来てもらい、こういう文化があるということを知ってもらい、運営にも入ってきてもらえると広がりも増してくる。

関委員 確かに、非常に面白い事業であった。観客を見ていると、地元の師匠さんなども見学に来ているようだったし、もう少し地元とのコラボを進めると、そのお弟子さんなども参加するだろうし、もっと広がりが出るのではないか。

高田委員 若い人が集まらないというのはどこも共通の課題だが、どうやって集めるつもりか。

青木館長 地元の高校の演劇部に声をかけるなど、学校の先生と相談しながらできないか

と考えている。

垣内副議長

横浜の賑わい座で、落語など学校と連携しながらやっている事例はあるが、趣味の多様化で伝統芸能などはなかなか難しい。一方で興味を持ってクラブ活動や稽古をしている若い層もいる。先ほど他の委員からコメントがあったように、地域の家元そのお弟子さんのグループなどをうまくオーガナイズすると広がりが増えてくると思われる。

交流館は、出来てからまだ2年であるうえ、想定以上に人が来すぎてなかなか手が回らない部分もあると思うが、当初は地域の団体や商店街と連携しながら運営していくコンセプトだったと思うので、そういう運営を期待したい。

ここで、2点、質問したい。かなりの来館者があるが、地域の商店街等からはどのように評価されているか。また、どのような協力体制が築かれているのか。もう一点、民間からの寄附の状況はどうなっているか。

地域振興課

商店街の会長に運営委員に入ってもらっている。ただ、現状、交流館の開館が地域の商店街に大きなインパクトを与えたとは言いがたい。スタンプラリーの実施やお祭りの開催等、地域との連携を通して活性化に繋がるよう試みていきたい。

青木館長

寄付金については、地域の600人の方から計3600万円の寄附を受けており、用途については自主事業の実施に充てている。例えば江戸時代の粋に遊ぶなどは、1回あたりの費用が20万円、入場料収入10万円程度でその収支差額に寄附金を充てるといった形で活用している。

小泉委員

当初想定していなかった外国人観光客の来場など、観光客の増加に伴い展示の翻訳など、新たな課題もあるようだが、こうした事象に対応するよう、指定管理の仕様を変更することなどはできるのか。

地域振興課

仕様とニーズが大きくかけ離れてきた場合には仕様変更は可能である。ただ、現在の状況と仕様書の内容がかけ離れているという認識はなく、現時点では変更は考えていない。

澤井議長

評価等を行っているのか。

地域振興課

年1回、評価を行っている。

小嶋委員

外国人の来館はどのぐらいか。

青木館長

そこまで頻繁に来館するというわけではない。

小嶋委員

では、そこまで外国人をターゲットに考える必要はないということか。

青木館長

観光客の増加に伴い、羽田や殿町に来た方が空いた時間を活用して観光スポットとして使うなど、外国の旅行者が来訪するシーンは今後増えていくと思われる。そのときに備えて、積極的に利用してもらえよう、旅行会社への働きかけなども必要であるし、受け入れる館の体制も必要と考えている。

小嶋委員

地域の方の交流の場というコンセプトがありつつ、外国人にも対応していくとなると、ダブルスタンダードになってしまう。決して大きなスペースがあるわけではない中で、コンテンツをどう充実していくかが難しい。先ほど、新たにタブ

レット端末を導入してという話があったが、これはインターフェース（情報を出力する方式）を変えただけであって、コンテンツが増えたわけではない。現在の展示では、色々な情報が詰まっており、点ではわかるのだが、なかなか流れとしてつかみにくくなってしまっている。

もう一つは好みの面もあるが、キャラクター（六さん）があることの功罪があると思われる。昔のまちを歩きたい人にとっては昔のまちの趣を知りたいという思いで来館されている方が多いと思うが、2階では、キャラクターが出てきて、概要の説明がなされている。3階に行く和一転してかなり細かな内容になっている。このあたりのギャップがなかなか頭の中で有機的に繋がってこない。タブレットの導入によって面白くはなると思うが、内容が良くわかるようになるだろうかという点が気になる。

澤井議長 確かに、フォーカスがぶれてしまう面はあるかと思う。

一通り各委員からも発言いただいた。このあたりで、議題1の交流館運営事業ヒアリングを終わりたい。御出席いただいたみなさん、ありがとうございました。

議題2

澤井議長 続いて議題2 平成27年度文化アセスメント対象事業について事務局から説明をお願いしたい。

<事務局から、平成27年度の主な文化事業について説明>

事務局 なお、来週も会議があるため、本日は各事業の内容について御質問等いただき、来週の振興会議で対象事業を決定いただければと思う。

澤井議長 多摩区のだま音楽祭や生田緑地星空コンサートの予算額はいくらぐらいか。

事務局 併せて200万弱程度だが、正確な数字は調べたうえで、来週の資料に反映させる。

澤井議長 前は、民家園が色々と議論になったが。これは博物館法上の博物館施設ということでしょうか。

事務局 そのとおりである。

垣内副議長 ここは、生田緑地全体の管理運営や施設の管理を指定管理者が行ない、学芸は市が直営で行っている日本でも珍しいポリシーを感じさせる仕組みをとっている。予算は約1億円と大きい、保全等に大きな費用がかかるものであり、中身は東海道交流館と同様にボランティア組織がかなりの部分を担っている。

一つ質問だが、現在、市の総合計画を作っているところであると承知しているが文化セクションで緊急性・重要性が高くぜひアセスメントにかけたいというものはあるか。

- 事務局 新しい総合計画を作っていく中での課題は多くあるが、現時点でその課題と直結した事業というものがあるわけではない。
- 澤井議長 過去に行った事業でも、新たな課題や重要性があるものについては、候補として入れても良いのではないかと。今まで、音楽ジャンルはかなりやってきた。そのほか、映像、演劇など一通りジャンルはカバーしたと考えてよいか。
- 事務局 ほぼ、カバーしているが、古典芸能などはまだやっていない。ただ、市が直接古典芸能に関する事業を行なっているというよりは、民間で活動されている方への発表場所の提供や後方支援としての関わりがほとんどであり、なかなかアセスメントの対象としにくい。
- 澤井議長 ミューザが復旧したこともあり、ミューザ事業を選ぶというのも一つの選択肢ではないか。
- 事務局 復旧し、新たな指定管理も始まったことや、市の音楽のまちを牽引する施設であることなどから、ミューザの指定管理事業も選択肢に入ると思われる。
- 関委員 アートセンターも指定管理が変わり、大分良くなってきていると聞いているが。
- 事務局 アートセンター本体ではないが、市とアートセンターの協力事業として実施している演劇事業や人材育成事業について、一昨年アセスメントを実施したところである。
- 澤井議長 個人的には最初にやった川崎市美展がどうなったかが興味あるのだが。
- 事務局 現在は、市民ミュージアムの事業として実施している。市民ミュージアムについては、運営の見直しについて検討を進めており、ここ1～2年で大きく変わる可能性が高いため、市民ミュージアムの関連事業については、その後に見ていただいたほうが良いように思う。
- 澤井議長 ミューザ川崎も市の顔となる施設である。民家園やミューザは、規模も大きいので実施するとなると正面から向き合う必要がある。
- 事務局 ミューザは昨年ちょうど10周年を迎え、今後新たに整備されるスポーツ文化総合センターとの機能分担なども課題となっている。
- 関委員 ミューザの指定管理者は今回変わったのか。
- 事務局 前期までの構成と変わっていない。
- 澤井議長 では、次回の会議までにミューザの資料なども送っていただき、それらの資料を元に対象事業を決定するというところでよいか。何か、追加で事務局に用意してもらいたい資料等はあるか。
- 藤嶋委員 市民ミュージアムやアートガーデン、その他市内の展覧会関係で市が関連しているものの資料等はあるか。
- 事務局 アートガーデンは文化財団が貸し館として運営しており、直営ではない。文化財団に補助金を出しているため文化財団そのものへのアセスメントという考え方はあるが、財団の事業全てにとということでは、あまりにも規模が大きすぎる。財団の事業をアートガーデン事業や、能楽堂事業など、部門で切り分けて段階的

に調査するというのであれば可能かと思う。

澤井議長

組織で選ぶというよりは、事業で選ぶということが必要であろう。

それでは、本日の審議はこれまでとし、事務局からの資料を待って次回決定することとしたい。

議事終了